

## 鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 27 年 3 月 20 日)

【二九】子曰く、君子は其の言の其の行に過ぎんことを恥ず。

言行一致という言葉があります。君子は言うことと行うことが普通は一致するものである。一言が、その行いと比べて言い過ぎたことがあるなら恥ずかしい。言行一致を求めると考えれば良いでしょう。言い方を変えると、行動して理由を説明するという事は良いけれど、先に発言して、行動が後からついてくる。または行動が伴わないことは恥ずかしいと思わねばならないと、孔子が自分の言行を振り返りながら弟子達にいつている。

今の時代にあわせれば、国会答弁を聞いていると、先に言葉で攻撃を沢山して、翻って自分はどうかと問われたら、すぐひっこんでしまうような人は、けっこういます。

言う時には行動が一致している。または行動が先にあつて、それは終わっていますと言えるぐらいにしてからでないと、なかなか言葉は発しないほうが良い。今の時代は言葉が先に立つことが多すぎると捉えれば良いでしょう。

【三〇】子曰く、君子の道なる者三つあり。我能くすること無し。仁者は憂えず。智者は惑わず。勇者は懼れずと。子貢曰く、夫子自ら道えるなりと。

この言葉は有名です。君子としての道は三つあり、それは仁・智・勇である。言い方を変えていますが、同じことです。私は三つとも出来ていないと反省の言を述べている。それを子貢が聞いて、弟子から見れば先生は三つとも充分に出来ているのにも関わらず、ご自分で話をされるときには、まだまだ出来ないと言っておられる。これは謙遜していると話をしてしています。

自分のことに置き換えてみて、仁・智・勇で迷うことはないか。四十歳過ぎれば智者は惑わずですから、四十歳過ぎて迷えば、もう一回勉強しなさいと。洪澤栄一さんは、六十歳過ぎて四十の心境に達したような気がすると言っていますから、一般の人が六十にして惑わずで当たり前ではないかと思ひます。

「勇者は懼れず」は、子路の蛮勇みたいなものは誰でも持つけれど、本当に勇氣がある

者は自分が臆病にみえるもの。相当に氣をつかって臆病なことを考えたり、言ったりしているのに、もっと前向きにやれば良いのではと周りから見える。

今の時代の内閣をみれば、アベノミクスを進めている安倍さんは、良く言えば慎重。悪く言えば臆病で手探りでやっているように見える。ひとつひとつ見るとアベノミクスはせっせと手を売っていると思いますが、中身は相当に揺れていると見えます。

最近、日銀総裁の黒田さんとでアベノミクスと言うそうですが、黒田さんは弱音を吐いて愚痴をこぼしましたから、これ以上の国債は持たない。持つとパンクしてしまうと言った科白は、オフレコで議事録にも残さないと言った新聞には載っていました。でも新聞に載るんだからしょうがないなと思いますが、かなり中では風が吹いています。日本が巻き込まれた時にきちんと撃退をする。どこまで迷わず出来るかなと思います。だんだん X デーは近いかなと感じます。

智・仁・勇は、その国を動かしている人達がひとつひとつ手を打つべきものであって、孔子は一生懸命やろうとしているけれども、無力でなかなか出来ないなと自分の言動をみて反省をしている。お弟子さん達から見ると、先生は充分にやっておられる。これは視野が違いすぎると思います。孔子は相当広い視野で見ている、お弟子さん達は狭い視野で見ているから発言の乖離がある。

日本の場合も、世界全体を見ながらの発言と、自国の中だけを見ながらの発言では当然変わって来る。今回のアベノミクスの違和感、現代に置き換えるとこの文章は見えます。